

音源の比較試聴(22)

—パガニーニの 24 の奇想曲—

1. 始めに

前報(21)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりで、さらに対策を追加しています。今回もそれらの対策の効果をも、音源を替えて総合的に確認していきます。

音源は、下記の音源のニコロ・パガニーニの 24 の奇想曲を聴いていきます。

アナログ盤

ドイツグラモフォン MG 8333/4

サルバトーレ・アッカード (ヴァイオリン)

CD

BMG BVCC 4003

神尾真由子 (ヴァイオリン)

STAGE+

サルバトーレ・アッカード (ヴァイオリン)

ディヴィット・ギャレット (ヴァイオリン)

ブルーノ・カニーノ (ピアノ)

Spotify

神尾真由子 (ヴァイオリン)

3. 音源の比較試聴の試聴結果

アナログ盤のアッカードは、1977年の録音で、アナログの音の概念を超えたような細部に至るまで厳しい音も拾っています。アッカードは、難無くこの難曲を弾きこなし、スリリングな演奏です。

CDの神尾真由子は、2009年の録音で、かつて、あるオーディオ評論家が、このCDを鳴らせないと一人前のマニアとは言えないと称したチャレンジングなCDです。非常にスリリングな演奏ですが、EMT981のポテンシャルや仮想アース、スピーカーアキュライザーの効果でアナログを聴いた後でも違和感がありません。演奏についてはアッカードに範をとったような印象です。

STAGE+のアッカードは、アナログ盤と同じマスターかどうかは分かりませんが、

スリリングな演奏は非常に似ていますし、音質もアナログマスターから配信用にリマスターングしたかのように似ています。

STAGE+のギャレットは、カニーノのピアノ伴奏が付きますが、これがどのようなアレンジかは分かりません。ピアノ伴奏は控えめですが、ギャレットのヴァイオリンは、ごく正統派のようで、神尾真由子のようなスリリングさはありません。

Spotify の神尾真由子は、CD と同じマスターの配信版と思われます。以前なら、配信では、とても聴けなかったような曲ですが、LAN アクライザー始めとする対策の効果で CD のレベルに追いついてきています。

アッカードのアナログと配信、神尾真由子の CD と Spotify などメディアの違いが音にどう反映されるか、興味あるところでした。

4. まとめ

いずれをとっても、アースアクライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成、さらには AV ドーナッツなどの結果、すべて効果がそれなりに現れ、メディアや演奏の違いや収録年代の違いも把握でき、格落ちするような音源のフォーマットや再生経路はなくなったことが確認できました。

以上